国立公文書館
National Archives of Japan

後鑑記錄

百八十七

和書門
類
五九九
號
函
五九四
架
五九七六
冊

内閣文庫
和書
五九九
五九四
五九七六
類
號
冊
架
函

内閣文庫
番號 和 9595
冊數 670 (247)
函號 214 39

国立公文書館
National Archives of Japan

羣書類從卷第百八十七

和歌部四十二哥合八

檢校保己一集

廣田社歌合 兼安二年十月十七日

題 社頭雪 海上眺望 述懷

作者

左

右

按察使公通

太宰大貳重家

前權大納言實定

右京權大夫頼政

帝室圖書寮圖書印
宮内省圖書寮

国立公文書館
National Archives of Japan

大皇太后宮小侍從
權大納言實國
觀蓮 左京大夫教長入道
參河内侍
俊惠法師
左兵衛督成範
左近衛中將實家
前斎宮大輔
左近衛中將實宗
左近衛中將頼實

權大納言實房
源師光
左大辨實綱
宰相中將實守
皇太后宮大夫俊成
盛方
登蓮法師
大皇太后宮亮經盛
左馬權頭隆信
皇后宮亮季經

左京大夫倫範
神祇伯顯廣王
賀茂縣主政平
賀茂縣主重保
資隆
廣季
親重
季廣
顯綱
伊豆守仲綱

寂念法師
道因法師
憲盛
通清
左兵衛佐經正
廣言
朝宗
伊綱
隆親
大炊御門右大臣家佐

季定　刑部権大輔廣盛
皇后宮権大進邦輔　安心
懐紙　祐盛法師
懐能　憲紙
智経　経平
阿闍梨性阿　浄縁法師
前斎宮中納言　素覚
判者
皇太后宮大夫俊成

一番　社頭雪
左　按察使公通
少々の見ゆる雪ふりてみたらしの水もまれなる
右　太宰大貳重家
あしたゆふべ雪ふる度ありなれたる神やいつ見む
左歌風ふかれる雪ふりてなとゝゝふ姿うなまくの
おもてをとかくくとて結ぶれ右方人ともいはれ
うれて社頭雪ハかゝるみくしゝと人ゝ結ぶを京の
二　角一文字あるを事ハ多数ハ多ハ初と天徳四年の内
裏合ふる判ともあるやうにまれたるこゝ不結れ左うるハ

しく終なく侍らんかぎりは御のことはいうばかりなく為綱

二番　　前権大納言實定

左　持

ひとつの身をもわけて白雲の神のいがきこえんとぞ思ふ

右　　右京権大夫頼政

ちはやぶるうちつる歌ぞとをきをばかつ思ひのきはうちはらひつる

たれとちぎりのいみしくはなれぬ物ゆえいかなる人

とかく侍れとかんたちよりもなほ義をよりもかなしく

思ふの剣をかたうくかたらふ方かはらぬをうち

ちらひつとい八ふ心をあらはすをこれをまことの道

やはらくれかんたちをうくかたらとをきをはなれ

社頭の面影せふこころもはつかしく侍りとたのもしく

侍れとも物ものたりてはかりかたく侍るへし

三番

左　　大皇太后宮小侍従

解脱の月もかたらもえこそ入わのひとりとしてふかくふ

右　　権大納言實房

山あひのまてはるる花ふるゆきはかすみはてしふかくさい

たにあのこそとをのこすて解るもはたもはるも

ちかしうもいあのしをはるをは右のをはるはれをは

をおひてかたしけなふ海人とられて作るん海いとめつらく
野ふ作るふうてふたうたけふふもも作る月のおれ文せも
もせうつくふやうこん作るこ八汲右当務

四番

左 務　　権大納言実国

きさはなくうちこれもうはさのうてはいつはさうなの物なるん
　　源師光

右

たとよおもひくさ人人とあくれもや物もうもふ沢もうんたもむ
左当ふうれもうはくはいはいふんもうふ流ふ
ものうくふ物ふ作るかもよ右当ふうもうん

五番

左　　観蓮

柳ふもかくうふうもおもの物くふ沢ふ物ふうもうて物利はむ
右 務　　左大 雑実編

きあの内ふ物ふうらもうの消ぬまふもうなくぬ朱の玉恒
左詩のくふけひふのもうくふうもうていはかりく社
作るう部ふん朱なき事ふ作るふめれかくうふくふそのの
物くうとふれきるまきて八古ふ文ふも修廉ふ作る面

あをやぎのいとをよりてとしをへぬ
梅ちるのちはあはれ春のくれ
えだにぬるをうとみかはるとて
ものおもふ人はひとしなべてや
ねまちそのをりなりぬれば
ゆるる紅なり　西園寺入道

六番

左　　之内侍

梅ちるかをとあらしにさそはれて
春ふかやとてうちる人の袖
右勝　　宰相中将実守

ちるこのしたかぜのうちふくはるのあらしにはなのかをぞ
たかき八十氏人のそでやさけるとそしらぬ袖にかをる
かしくまでちるこのしたかぜのはるのあらしにはなのかを
めでてこいつるはるのあらしにはなのかをぞ
右勝　　俊恵法師
おもふにはなのかをぞ
ちるこのしたかぜのはるのあらしにはなのかをぞ
昭のうちにおちるはるのあらしにはなのかをぞ

七番

左　持　　俊恵法師

ちるはなはゆきかとぞみるはるかぜのまとをはらはぬ

右　皇太后宮大夫俊成

いさゝかの家文を開くに春なれやおもかけたちまちふかきもれ出る

左　谷さしかくしたるうぐひすの声はかりのこれるなりけり

いとおのれとて作ふめれ中深くこそ聞ふる事なれ

らねくに列なるの作ハ作ハ不加判

八番

左　勝　左兵衛督成範

雪のうちに春の来ぬるやまとなる人ぞ作りの作ハ梅をたにもなる

右　盛方

沢の作やあらぬ人ぞ作りの作ハ梅をたにもなる

左　雪ふりてさせる枝なく作ハ雪ハ

たれそのあなたにもなるなるいとなる

おのれとなるそのもとにとやもれいかなる

作ふるに雪ふるあるねとたるこそ

やまぶくや

九番

左　持　左大弁藤中将実家

あり仕の作ハ人ぞ作ハ

右　也蓮法師

雪ふる作ハ春の作ハ作ハ

左　雪ふりてさせる枝なく作ハ雪ハ

たれそのあなたにもなるなるいとなる

おのれとなるそのもとにとやもれいかなる

作ふるに雪ふるあるねとたるこそ

やまぶくや

左　[illegible]

かすとりつるまの社の弓月もとのなりにしかな

とのゝ[illegible]

こゝろにもとゝいつる詞つゝしひしりとなりたくすてゝ侍

左　おのゝ[illegible]

かもしられをもとゝ[illegible]ぬるたなとおもと仕

十番

左　[illegible]

右　[illegible]

[illegible]

[illegible]

津守国夏の乱のことにつけてもあけぬるを後
左次第にたつまつるふせちを弱の雅よせて久しく侍
りつるふん盗いとおのつからとて行られ右なる多ふ法つひ
なとあしく侍ぬとたまふよのとつとふ流ていれ
のやしろもはてそいに侍ることなれとふれの社をは世
ふてかくはいつくこのくれ行をいと次左馬絵

十二番

左　持

左近衛中将頼実

はやれのつかうをもよ物はれてあらのたまふかよりあ(元)ふ
右　皇后宮亮季経

物しる重けらはよ元ちてを沖を法つるなれ(ば)の
左馬つこそ系ひひなれて久やはけ(ま)なしおりしを侍る
はるのもの太これい空さくと侍るもそいん盗あ無ありて無
侍るまをしるちてとといつるふさるやそ中の志ちは
ちはちをまをふ世ふてり歌はおほく侍をとふ後歌は
色あるねしくよそさく沖をなしるる志ちをと社
おうしく侍れを持しややしくこのしん

十三番

左　持

左京大夫俊範

志あのしるふ物るとなるく侍ちとあ(ば)なん沖の志に

右　寂念法師

[illegible]

十四番　神祇伯顕廣王

左

[illegible]

右　持　道円法師

桝[illegible]武庫の四月さくてやうもさかくに武庫の山

左　[illegible]

[illegible]

十五番　賀茂縣主政平

左　持

桝[illegible]

右　憲盛

[illegible]

左　[illegible]

上下あひうなるてよろしくはやし侍るとはいはゞ

侍りぬ

十六番

左　賀茂縣主重保

はるかにそもそもたれかはてきしかくさるとてかの方にかくさるる

右　持　通清

たれかはかの方のうたをよみすてるかとそうたがはるる

たとへはかくそもそもの下ようをうたをふるかの方

なりにくるふこころをおもひくるをもの中の五文字やうにて信濃

道にはらんかをこそはなるものをいつかの方

たこころにあるはるかの秋をいろくさにはるかの

白雲のそてはなにをよるとはるかの右

勝しかは一きなり

十七番

左　持　資隆

秋のはつかの月の中ゆゑにはるかにはるかの

右　左兵衛佐経正

をとこてはかはもさとてはおもふにあるかの山

左のかたかはるるとはるかの外もはるかになるとは

こころはいつれも無ありてはるかにたのはるかの

かもはるかのをとてはおもふにはるかにたのはるかの

はるかはおもふにはるかにはるかにはるか

十八番

左 務　　廣季

天くもりぬさ神よりやうちくもりたるたまのをとにぬれ

右　　廣言

人をいとわれぬるまの神なれやいろのをとにもたるたまのをとにやうちくもりたるたまのをとにぬれ

てくるをとにぬれて侍る右も神こそやいろの田のをとにぬれてよ

めるをとにぬれてと侍れとなほ右もをとにあひかねてをとにぬれて侍る

十九番

左 持　　親重

ちるをとにあてゝをとにぬれてをとにぬれて侍る

右　　朝宗

ゆふ行て人いとあまね神なれのをとにぬれて侍れ

左の歌ぬれてをとにぬれてをとにぬれて侍るをとにぬれ

右の歌をとにぬれてをとにぬれて侍るをとにぬれて侍る

二十番

左 務　　季廣

ゆふくれぬとはのつゆさへをとにぬれて侍る神の歌やうるあけぬ

右　伊勢

[illegible]

左　持　顕泗

北一番

[illegible]

右　隆親

歌闕

[illegible]

北二番

左　持　伊豆守仲綱

[illegible]

右　大炊御門右大臣家任

[illegible]

左　右の[illegible]

清の水みけ宮はとりあつまりて清水を作りあつまりて
夕れ

北三番

左　　季定

きよはらのふかやぶの初人　人をそれもあらしとおもひよりぬ

右　持　　刑部権大輔廣盛

磯ちかき沖の小島ふかうれもちやあまのすまひぬなるのふりよ

左　分らの比あるらみゆるちかはれとしらぬ侍

ておもひまとしら浪とふまの白とをもてしひとれ

ふかうらんしめつ右ふいとちうよ沖の小島のもと

海ふきはれぬなくこの夕ちりふりしふるおのしくまくて侍

と作右のかちしやまてくや

北四番

左　持　　皇后宮権大進邦輔

沖の後や夕ちりしの月て津ちやあかしのまつなる見

右　　安心

沖のそやはるかてらめつらきけさのたつ波

左右いつれもいひちれて侍よいとてはらてらし

めつらしたりの初ちいの初のおもなるよ

こちらしたれとしたのあるつらしたれ四ちまるやや

中へうん

北五番

左 持　　憲繩

ふるさとのはなのしたかぜはなをいとふ村雨と侍れば

右　　祐盛法師

沖つ波のゆくへ定めもなくとぶ鶴やたづの人やうたがふ

たがひにめづらしくあはれなる西行法師の歌なれば

なほ侍るべしとなん申しかたがたなるべ

のきはにちいさきつゆ又村雨とぞ侍るべ

りふかうきりの中に侍るべし　右京沖の歌は

はるもはるとはるのくるふるさとの朝ぼらけとはるのひとこと

よりて為持

北六番

左　　懐能

沖つ波ゆくへもなくとぶ鶴の羽ばたきをのみ見るぞ

右 勝　　憲繩

ふるさとのあくるを庭火の前にたとへたる西行の歌

たがひにめづらしくあはれなる歌なれば

ゆゑ侍るべしとなん

こころもとまるとこそ侍るべ

九七番　左　勝　智証

たまくしげのうちとけぬまくらとあかしかねて
右　経平

なのりそとたれかそこの浦みおもかれて櫛もとめつゝ
たのもしいさきよりもなくこのぬしいかゝおもふと
伊勢をとゝいへるやまをいとてさいとゝ見えし伯
れとたとりあかすあかつきの月

九八番　左　持　弘法　南梨性阿

祝ふとて人の樹とてふれたるとたてうて鶴かとて人に
一右　浄縁法師

たとへてはかしこかれ庶子の法ゆとうえたる者童
左はめ所しるきかいかゝ所ゆとうえたる者童
如月おもひ中へしろく咲やいかゝうれとうれと
九九番　左　勝　茶道宮中納言

秋ふかみ樹とてふ上かとてふ上とてふれたる

右　素覚

[illegible]

左　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一番　海上艇子

左　持　按察使公通

[illegible]

右　大弐重家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二番

左　持　前権大納言実宣

武庫の海をなぞらふ胡蝶もとれぬあとの時ふ

右

賴政朝臣

船つゝあるそなたをなつかしみ舟もとまれとまれとぞ入る

左 詞をいまはしあらしやまはけしるる姿あひつの物よ

行る先の月もとられぬあとの時やかるとの心ふ彼岸

色過ぬ袋海上とゝしひ龍門翠望眉お對なもとゝ

詩ゆゑひいてられて幽玄ふとそうて行れ君ゆゑ

ふ海のべでいとく舟をいてふたゝくかけめるゝちせ

まもの終るけさに入ぬんとも思なるとゝ及

ゆゝしくて不分明なる樣

三番

左 物 小侍從

てはそをまの長海の果なんとゝ舟ゆ入ゝ

右 持夫納言實房

和田のとなりなるたゝ中ほのゝ行る樣ふ

たゝ今ゝ入姿ゝ行と右ゝ樣ふ

なゝ中ゝ入ゝ中ゝ泊いつれもいゝ

おゝゝ思ふれ行ゝあゝ時やゝ行ふ

上の句のまゝいのゝ行ゝんゝ

たのゝやゝけいゝ行ゝ

四番

左　持大納言実国

松浦なるてりもとふられなるうらに舟人のまてたくぬる

右　師光

ねもなの塩ちりぬれのよ中ちかたらかもめよ沖のつり舟

たのまつに舟こゆくをはれるうら舟人のきし

きぬるをくらくいらをを右のきりけるの

よいてふたのとのくををよるくはすて船をのうえ

なををはしてをを

五番

左　観蓮

なるの上ふなをををれをををんゆをのなをれをしの米のをは舟

右　左大弁実絶

をんををのかをふををををんをををを

六番

左　三河内侍

和田のとまりおよる風さへはやくはなるるあらしかなる物舟

右　宰相中将実方

昔古はるかふきしをしぬをしの原やとをはらしあるのな舟

たのまはまき泊つしいかりとをるとをのあ間れ友

ふるとしかもこゝろん越ん人おのおらしこゝろいひし

まて人をるよたのあの川のせゝをしんはしはしをと

けりをやとをしをれいか右の後とのはしはや

七番

左　後恵法師

をのなるこゝろのをはをぬるハ天の川ふるさとやつはる

右　宮内卿大夫後如

秋田のをこゝはまれぬる舟路をんもをたつなるさつけを

左　欲てはいかをこゝをやはたつるふしふはは弦物をを

おを手深侵十万を清こゝを内のこゝろ光ふるハ

くはるいこゝおをこゝをはれ右ふいを光をはるに

はのこゝ刺をの感をうてををあをはをはをを

弥をの恐れあをこゝ人つをはをいはるはををを聴を

のをこゝろをこゝめてのこゝ侍人の海を西望の

法なりせんれてそうのたこそをたてまつりて以た
為後

八番

左 持　左兵衛督成範

おもひなくあるのけしやうにたちるこそのあるゆりそ
右　威方

そさいてゝみをそなをまわるせいやのまにかるふ雲
たゝとおのつゝひのたれかのくふるこゝ天の門
みやこれあふいるくおもくんくたちるふん
いれとくそ上さんゆるむやうよあれこなゝの

まのそふひとつよそかなゝ右をあのきゝ
けたるくゝをくたをとこれもんおりをもゝ
みをたるくないてふ雲かゝ迷ゝの秋よゝ結
ゝれておもゝ

九番

左 持　宰相中将実家

ゝゝそふ初のゝれ山のそもそくたるおの仲ゝいてゝ
右　光蓮法師

なゝめやふ舟ゝあゝもゝるゝ昭ゝゝ松浦ゝの妹
たゝゝもゝのゝゝの山のそもゝくたるおのゝりくふ

[illegible]

出羽守あきもち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十番

左　大納言

いつかたにかすみこめるたかさごの[illegible]

右　修理大夫　従三位経盛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一番

左　持

[illegible]

右　左近中将実宗

[illegible]

左馬権頭隆信

[illegible]

[illegible]

右[illegible]海のなかい[illegible]

[illegible]

十二番

左 絵

[illegible]海人の釣舟

右

中納言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十三番

左

[illegible]

右 絵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝ[illegible]ほとゝぎすのこゑ[illegible]
[illegible]
月あきてそてもとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十四番

た　　顕廣王

[illegible]
右　俤　　道因

[illegible]
たゝはめつらしよはの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十五番

た　　賀茂改正

[illegible]
右　俤　　憲盛

ほのぐゆるかすやおつれしらなみにたちかへるまの村雨
たちぬはのくもんぬなるちをはひたるをそいいに
おしなべちあくまちいてなるたていをとこいとうも
こころのうちなるみや右谷一番のたちやまさこみ
人はりつれとかるやおはの雨ちんらくるこの山のこ気
よりこそたえ伝ふ風はあり右そこのたれ
のしくいひまつひけれとなほ浜まつわすらる
まのなおしくすもいかの浦とよはりぬ

十六番

左 持　　俊成室保

ゆつ海やとかちよりのよりふかしまはやなるみの色かくるの月

右　　通清

いつくやいとこそくぬあまとまれなる海と思ふかれぬ
たのもしもよ雅平のくちりけて保よみし作の浦

お持

十七番

左 持　　資隆

波の上ふるくるかくんはりふ伐さのうり室のとまぬ

右　　左 宗佐注正

こそくあれや月中ふんをせい波よけるる松のむら五

左　ふるさとをあらためてとはぬ中なれど宮のうちの中ぬ
のちるさくらかとみるまでにんかしとんぬいらなるふけ
ちるさくらの村雨ちるしいつふ海こそ見はしとそ
行末いつれもそらくうておもひ中色

十八番

左　持　虎雪

見そ捨ぬ松の梢もそらにそらとそ海とそそ物つふ

右　虎之

和歌のそこ中みそるうにそ見ていふ日ふ海のふ末のそなるつね

左　いそそ言ぬ中ん内ちしてよろ海ふ海ふ海つて右ハ

第のそ分舟名のそ中ふ海のくさそうそ海おしそ海
紀のんそおきしく海のちそハ中そ海ちくちそうて
ちそ持そん

十九番

左　持　親之

そ海ちそ海つてひそる海のそ海舟ちて海ぬなそ海ぬふ

右　知宗

和歌のそそ海そ海ふ海人舟そそ海なそ海そ海ちそ海しそ海
左のちそ海舟右の海ちそ海ふそ海ちそ海ふ海ちそ海ふ海
ちる海そ海ちそ海ちそ海ハ海て海ちそ海ちそ海の海ちそ海

人目なとまれと祈る恋

二十番

左　特　季底

さきのこれ人を見てこそいとふねのくてもみよ恋ひそ行

右　伊勢

こひくらなるこそよい舟もいかなみの数の舟

左　波もなくこんかなとうら行ち事の白のこそけたて

いとふやさてもとよ行ち右分ちんめてこと

詞なくしるをかの色のさきんてと舟をのる

もちのすしなくや行ちんいれまちむてこいされ

廿一番

左　持　前斎

味田の原ちみよちちのるさてやの時をはそらよ行なちりて

右　澄教

色くなるのはさちをんまるセハ中みよはるふあまの釣舟

左右ともよ弦のんさおくも行ち回人なるのにうて

ひちハ行なりくふやあちち行へすず西太

十二　きいおさいさちちみていひまるよちのことをそいはること

よ西ひるのこそかちて行ちりふこれもさしても

あらぬ人りれと発さたなくしたれはとしたて

サ二番　仲継

左　伶

あくるやそのほとりに漕舟をはのあとのれる人かたる

右　伶

ゆくりなしいらかるるあるをうもんしたくなくかたれて

左のくさまとみたるにそ蜀江霊撰法寿るう漢よ果

しかとこたりの撃る帝てしんおくしるあて人かたて

えるしいふやのさくまるやとおとのれと唯張

寿のくさまとやといてるの帝てしんを分いてなるにれ

左持　季宮

サ三番

漕くおるしさりいたりとしてあくるの時のるるとれと詠るか

右　唐盛

法ちしゆくのさいちをんるをせハ海人のなるのあをはけ

左分ちるとはよりしくしたくをしたのはやのるとと

もとのるるんしくやるのるるる歌の白いてはもハ

とおくしはるるやるを古分一三句なくハたのこてなれと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくて行ちかのうもをしなべて流とにまつりれて松をひきけ
かくて行る上ふはくまちかたちて いとふけよりてもあ
らぬうやたちなる舟まく傾すもあるねとあるた
う天津をみさちかくこのうるこころよりよりこんて傾ハ
たれ舟とよりぬ

九六番

左 持 懐紙

なみのうへにたちもてくふかう流をいとてもきちかる沖つ波
右 憲親

海人とうねの里はちかくこ漕ちれて舟のうへやひかんあた

たさちかくのはちかんふ行ふとりて者の白きあふ海
うふはちかなくこのふ詞の家のおうちに交る
はちやうもれらんまる波とかをとりはけの
こうちれとあれ物てをふをとよりむこうハか
ちんをゆうされやふうとりて行をもむ経ふて
あしに但ふれちとおれ物なるくー

九七番

左 登経

おとふ海ようちやうれ火あうちひふねまれ四落の立さハくめる
右 経平

あるの示ひたれなるもちをこんまるもそそ浦つらひて月七寄る
このつひの名たれをとてもよろしくいみく侍ると二首乃
まれこそそふたいさくやるもをよみをれるる
ふとも月まるるふこそ侍しく侍るとて抜れの須
ケのなるくらとんまるもいとるる海侍よ求こ西江
るをれ侍しや了

九八番

左 持 性阿

底田ちあのしと知てなるもいろるいるさくふ流
右 浄縁

あれやこの海まれたちむてふ浦あるたるもの妹さるみ
たんこそもおのくふ侍るを底田よりもとれるはめ
一 の句あるたしるなるこそやちんまのるしより後
みさくくさ侍なしさくくるこれをとを乃
たるものたるれふまるしいるふをよ海を侍を
上句はあれやこのよをるやれ月のするそそ
侍るるのおれるてあねとたるひよかやとはるの
くくく侍とハおとやしくはよあやくくく

[illegible]

右　絡

武庫[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一番　述懐

[illegible]

[illegible]

右　絡

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二番

[illegible]

[illegible]

右　絡

大弐[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なとかくれたるもあるぬえひとりに知るもれとおのあれ
た数まつるれてなくいとふたりこれはのしこ侍
松枝ちといてるやこれのもとかとたれやこる侍人
名ゆうてかくもあるぬ海のこ系つひなもお
うくこてたて侍もこもとも同苍の郢曲の中に
えひとりにものこ元ちまとたふ系れ侍本れ
勢ゆれとひて詠みもあるぬえひひたちよこる
こちの海いこ行のこ元侍なと仕角の侍よを
こやけらんきれと詠の侍名もかりて侍れい以右
結こ中る

三番

左　持　小侍従

夫こ代まあ世これ大こはのちむこのいあるなれもう者

右　実房

いこよかこよ元むこよあ世いとなこのこ者つもう侍
たこんこよあ世こ侍よこ元これこるかくこ
いここ分こ元侍こんなこ元ちまとて侍なこ元と
ちまこて侍こものかな侍なと分侍元こうあり和ちを
こや侍らん

四番

左　絡　　実忠

あきかぜの吹くにつけてあくがれぬ
右　　師光

いまよりはうらみもきえてわのたくちねのまくらとなん
左を降るこえとなのらぬもなをうぐひすぞ
くもゐなるこのあきかぜのふきぬれば
せてあくがれいづるさまとなん
おもてあひなれぬるたもとまでもうらみなん
人々の位あるべきことなれど
なをおりしのみ絡

五番　　訳道

左　持

うの世うの数ちりぬるもの九ぶ
右　　定綱

くるのぶのほぶいくるる吾のなもかいてく舟なるくは
たとえ逢ぬのの原ならねどなく右ん棘路の景色
のこれりく現世改変後変已日依為持

六番

左　絡　　之河内持

きりぎりすなくこえ田の沢ちかくかりまくまくまく

右　　実ち

[illegible]

七番

左　持　　佐吉

[illegible]

右　　佐成

[illegible]

八番

左　持　加範

ふるなれぬ法のおしへを身にしたがへ
ちよまでしぬ
右　威方

あるべきかたもなくてもなほ厭いとふ
左　法のおしへにしたがひ海いとおのそ
ひるめれ名分かぶせれたるものきれたれ
ばいとふ法もとわれくいとふたちこともも

いとふ法もていつれも世ひかりてこそ侍
なるとまるおしやるそ
右

九番

左　持　実家

苔むすめるこ唐の沖なるこ波はうつもれてもれむ
右　紀通

いつまでこ音世のらこ波のこ法のまくらこ月のあれ
左　ぬめるこ入るこ乃なこいつふこあまこそ侍
ぬるこ中に枕のくとよもそれて侍ふ侍るこ
ものを至極悲哀作秋心こふる詩のこそ
右

次こゝをのにて祝言をかけ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十番

左　絡　大蔵

[illegible]

右　作聖

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十一番

左　持　実京

[illegible]

右　隆信

[illegible]

左歌外者聖朝の交内者沐浴を仰くまことに
きりあふてよこそ〳〵はすていとあるのこゝろ作者兵部卿
のみこの体なりてこゝのこゝろをたゝしの世をとをあ
て外るまことのこゝろをかこそ作者兵部卿とみて
左を右云こゝろなる事ハ左はまことにも作者の心乃
きりあはよ者多こゝろをこゝろくて沐の先〳〵とたのめふこゝろ
給よつゝてあれ〳〵作りむしてはゝ作者

十二番

左 持 牧宴

ふきまてはかくこそ〳〵つゝ山まをめて〳〵庭田の沐よきの秋ゝ

右 季経

ふるひ〳〵稀もやれぬるよ分けあやゝやれりゝ中むきれ
左云〳〵こゝろ〳〵つゝ山まをいひて先〳〵庭田の沐
よきをせんと作る文をはよいとをかしくも作るとのみ
ゝいひて於もやれぬるなりのなをいひとをてあ
やゝやれうこゝろをこゝろて作るこゝろまをいこゝあり先こゝ
こゝて作をこゝろをつゝ山まをよきひまこゝろをかれ作りぬ
左云沐をこの尼左をれる上を云のこゝろの未まを
こゝ作りこゝろをこゝ作をを以て九番作

十三番

十九　猪

倫範

俊よりなを世もなりとしてとりてのむかしの第をゆのしな

右　家念

ぬさ人てもとれてかれしなをなるに人ちとの世るあるとをなる

九ふるしなを世もなをもとるふをてしいるふれるわよろしに

ろてなをて仕をおるおいをのををひてんられるの仕なる

けるをてやをなをるんを仕るをかるのしををきあるて

をくなるをしいるるるるのるをれをなおりをるふを

ゆをと仕るるあるせるのををるををかて一れをまの

家しをいをてをしいをやのしいををやんを仕をを

十四番　九　祇園王

九

むをしちをるい家母の神をれをいのるふいのるをもなるをををむを

右　を母

仕のをを家をのを風をををして二家神のめををを仕

十五　九右のをを九をいをのかをくををを仕をを九のををひ

家母の神をれをををををををををををををををををををををををををををを

をむををいをる神をををををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををををををををををををを

沖のめうこをそなたといひてうんとうこはまくるを
よろこび給ひて此書の給ひてく沖ゑよりうんこ
四不加ふ刑うう

十五番

左 持　　賀茂政平

なうくて世をあるくとはたのたれ世間の社れ名を社ふ
右　　憲盛

かくうれく八十年さのひたちもれ所のうかてれて君行光ぬれ
左 ふ分もうう詞ひいなーくんて作うたるこうの屋
といひうそうそうそうそうらも作ねと世な

ムうそうて作う一一方分うそうよくたうもなうう
うくて作うれて言れんあうれううくて作うたる分もせ四
のもうたうて作うたるて書ねこと判

十六番

左 持　　賀茂重保

いつたうれあれ系よ才をなーてんけううる作ーうんん
右　　重清

世をまうこれ橋をたうひて清のうたれなうくひ沖ハ紅ん
左ムる世ーんうてて作ふ右もあうくねてく沖
う紅ムうのうくあうれる作る茂ーめうみ

[illegible]

十七番

左 持　　実澄

[illegible]

右　　俊正

[illegible]

左西方の遅[illegible]

[illegible]

[illegible]

十八番

左　　春季

[illegible]

右 勝　　春之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

手跡はそれとも詠の本ひて世のてもの張り

第一

十九番

左　持　親王

いとせんたのうしめのきしめれ　ふるとしの春

右　為家

数なしねんてもいりれてまたかたてかりぬれ

たのもちんとてうしてはとまはしれ

二十番

左　持　重房

歌あはせもなりしもとうしてかりかな

右　伊陪

はるのるとすもれむ紅梅とうしてかりかな

左歌ようとよく作り中の五文やすきやすしてかりかな

ちかう上るはひあはれるんていとあるこれ

紅の白れ初むるこるやかと見まほしく作れ又

おもしろ八一

九一番

左　持　前宰相

ようなれてもあてもれ初むれ世の多はくんみたるこれ

右　隆親

[illegible]

九分[illegible]

まゆみの作[illegible]右[illegible]調[illegible]

[illegible]の脇負わ[illegible]

九二番

九　仲[illegible]

天津[illegible]

右　[illegible]

[illegible]

九分[illegible]

[illegible]

[illegible]

九三番

九　[illegible]　季定

[illegible]

右　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

依た[illegible]

北四番

左 持　　邦輔

[illegible]

右　　女心

[illegible]

[illegible]

北五番

左　　情深

[illegible]

右 [illegible]　　祐威

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

北六番

左 持　　惰能

[illegible]

右　　憲經

[illegible]

[illegible]

[illegible]

北七番

左 持　　初位

[illegible]

右　　位少

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もゝ千代とくきこえたるふしぶしにまれなるこゑ
とゝのへたるくきよあるあさまをあらし

九八番

左　持　中務

名をしたゝにかくれてかくれぬるあるかなきかをも
右　浄縁

かつらかはやとりのこゑのよゝにかはらぬせゝらぎ
たゝもとのせゝのつゆにやなるこゑ
かくれゝよりなるもとのこゑのなかるゝ
たゝ出そゝとしてゆくんなるもんのあるき

人をとゝまるはしとゝなる

九九番

左　修　中務

小夜ふかくなるまゝに波をたてゝかくれぬ
右　家定

赤さるゝ音ちゝまをたゝしをみるはやかれ
たゝ小夜ふかくなるまゝにかくれぬ
秋感さゝめて修ゝんやたゝ三の光まのみれあやく
なるものけさはしをゝ多ひとゝまてかをたの
秋のあはゝとゝてゆれとしいとふえゝとゝとゝ

[illegible]

[illegible]

嘉安二年十月十七日加判之如令馳筆不能委
思後見之有恥仍忘訣爲也

三井寺新羅社歌合 嘉安三年八月十五夜

題

遥見山花 古郷野 潮上月 野宿雲

於合友愚

作者

左

中納言君 法住寺石蔵法橋房

阿闍梨蓮忠 三乃至護院住

阿闍梨蓮第 丹後守為盛息

肥後君明智

右

少輔君 三井寺南院執行房住教智律師房

阿闍梨恭覚 恭尋法橋息

阿闍梨親賢 大臣伊要息

大進君智還